

石西礁湖サンゴ礁基金の活動について

特定非営利活動法人 石西礁湖サンゴ礁基金

1 これまでの経過

石西礁湖サンゴ礁基金は、石西礁湖自然再生協議会規約に基づく寄付金等細則の規定を根拠として発足し、平成 22 年度に寄付募集を始め、23 年度から事業を開始した。

(寄付金等細則 <http://sekiseisyouko.com/szn/pdf/kyougikai/kyougikai16/ks01.pdf>)

平成 25 年 5 月 21 日、同名の特定非営利活動法人を設立し、活動を引き継いだ。定款の「事業」で旧基金の「使途」を引き継ぎ、「目的」に協議会メンバーと協力する旨の文言を入れ、旧石西礁湖サンゴ礁基金を実質的に継承することを明らかにしている。

本年 5 月、NPO 法人設立後 4 年を経過することとなり、法人化前の期間を超える。

II この 1 年の活動

(27 年度までの事業については、基金 HP「NPO 法人について」のページの「事業報告・決算報告」を参照してください。 <http://www.strata.jp/sangokikin/about.html>)

1 農地からの赤土流出防止のための農家支援

過去 3 年度に引き続き、沖縄県赤土等流出防止活動支援事業補助金を受けて実施

(1) サトウキビ夏植えの畑でのサブソイラ作業料支援

夏植え 1 年目は畑表面を作物が覆う面積が小さく、赤土流出の原因となっている。サブソイラーは、溝を切ることにより雨水等の地下浸透を促進し、畑表面からの流出を防ぐ作業機。

28 年 11 月に実施済 13 圃場 755 a

(2) サトウキビ株出し推進のための株管理機作業料・堆肥支援

サトウキビの株出し栽培は、収穫後の畑が葉ガラに覆われ、耕さないため、赤土流出を大幅に減らすことができる。旧基金発足時から推進してきた。

株管理機は農家の作業負担を大幅に軽減する作業機、堆肥投入は地力を増進し株出しの効果を高める。

2 月現在、実施中

2 オニヒトデ駆除 今年度実施は未定

(石垣島周辺では大発生は終息したようだが、西表島の特に西部では、まだかなりの数が見られるという報告がある。)

3 環境教育

27 年度までは、補助金・助成金を受けて、直接実施してきたが、今年度は協議会メンバーに助成金を支出する形でも実施した

(1) 高校生に対する赤土問題についての授業

沖縄県赤土等流出防止活動支援事業補助金の助成を受けて実施

・平成 27 年度 28 年 2 月に 3 校で実施 実験及び講義

・平成 28 年度 29 年 2 月に 2 校で実施予定 実験及び講義

(2) 小学生に対するサンゴ学習の授業

わくわくサンゴ石垣島が実施

5 校 シュノーケリング、コーラルウォッチ等

(3) 中学生に対する生物多様性の授業

エコツアーふくみみ実施

2校 外来生物と固有種、生態系、15年後の自分と地域の自然 等

4 広報啓発事業

(1) 地域のイベントへの参加

- ・みなとまつり 28年7月18日
- ・石垣島まつり 28年11月5,6日

(2) 畑と海をつなぐサンゴのまつり

- ・27年度 28年3月5日

協力：崎枝公民館、後援：石垣市赤土等流出防止営農対策地域協議会

趣旨：赤土流出の少ない農法の作業を体験することで、農地の赤土対策を知り、陸と海のつながりを実感してもらう。また、ビーチクリーンへの参加、展示等を通じて、サンゴ礁をはじめとする地域の環境に関心を持ってもらう

サトウキビ株出し栽培の畑での補植作業体験に約70人、全体で約200人参加

*地元紙の1面に記事が掲載された

<http://www.y-mainichi.co.jp/news/29459/>

- ・28年度 3月5日（日）に開催予定

補植作業体験、緑肥となるヒマワリ種まき（芝浦工大学生「石垣島を元気にするプロジェクト」が実施）等

5 サンゴ認定

WWF ジャパンが行っている、サンゴ礁保全に向けたサンゴ認定制度の検討に協力

サンゴ認定は、サンゴ礁保全につながる活動を行っている事業者等を認定し、サンゴ礁保全に向かう社会の形成を目指す。

関係者へのヒアリングに参加、勉強会共催

6 「2016年夏のサンゴ白化情報発信プロジェクト」への参加

昨年夏、八重山地域などで起こったサンゴの大規模白化に対し、サンゴ礁海域を仕事の場とする人たちが始めたプロジェクトに参加し、ポスター制作・ウェブサイト構築等で支援している。

プロジェクトのウェブサイト http://hakka2016pjt.sangokikin.com/?page_id=14

7 その他

石垣島マラソンでのサンゴ礁保護活動応援のための募金活動を、前2年度に続き担当し、「わくわくサンゴ石垣島」のみなさんなどの協力を得て実施した。 29年1月21,22日

III 今後の方向

前回、課題として挙げた、事業の拡大は、少しずつではあるが、実現している。

取り組み実施、活動参加等の協力者を増やしながら、徐々に活動の拡大を図っていく。

(文責：鷲尾雅久)